

# 主要計数の推移および活動の状況

2023年度 事業報告 補足資料

自2023年4月1日 至2024年3月31日



一般社団法人

**日本自動車連盟**

# 目次

---

## 1 主要計数等の推移

(1) 会員	1
(2) 交通環境啓発活動	2
(3) ロードサービス	2
(4) 会員サービス	3
(5) モータースポーツ	3
(6) 広報活動	4
(7) 主要計数等の達成状況	5

## 2 活動の状況

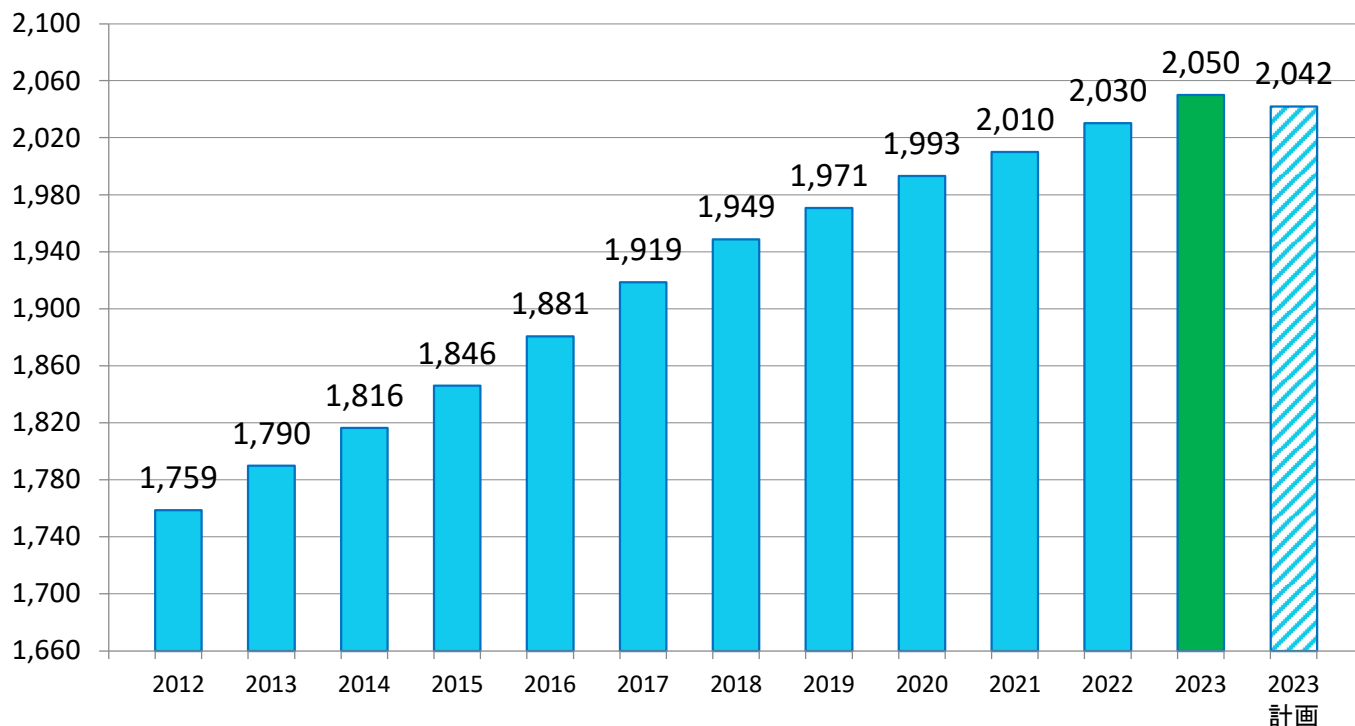
(1) 交通環境啓発活動	6
(2) ロードサービス	13
(3) 会員サービス	15
(4) モータースポーツ	18
(5) 広報活動	20
(6) 国際活動	22
(7) 情報システム	23

# 1 主要計数等の推移

## (1) 会員

(万名)

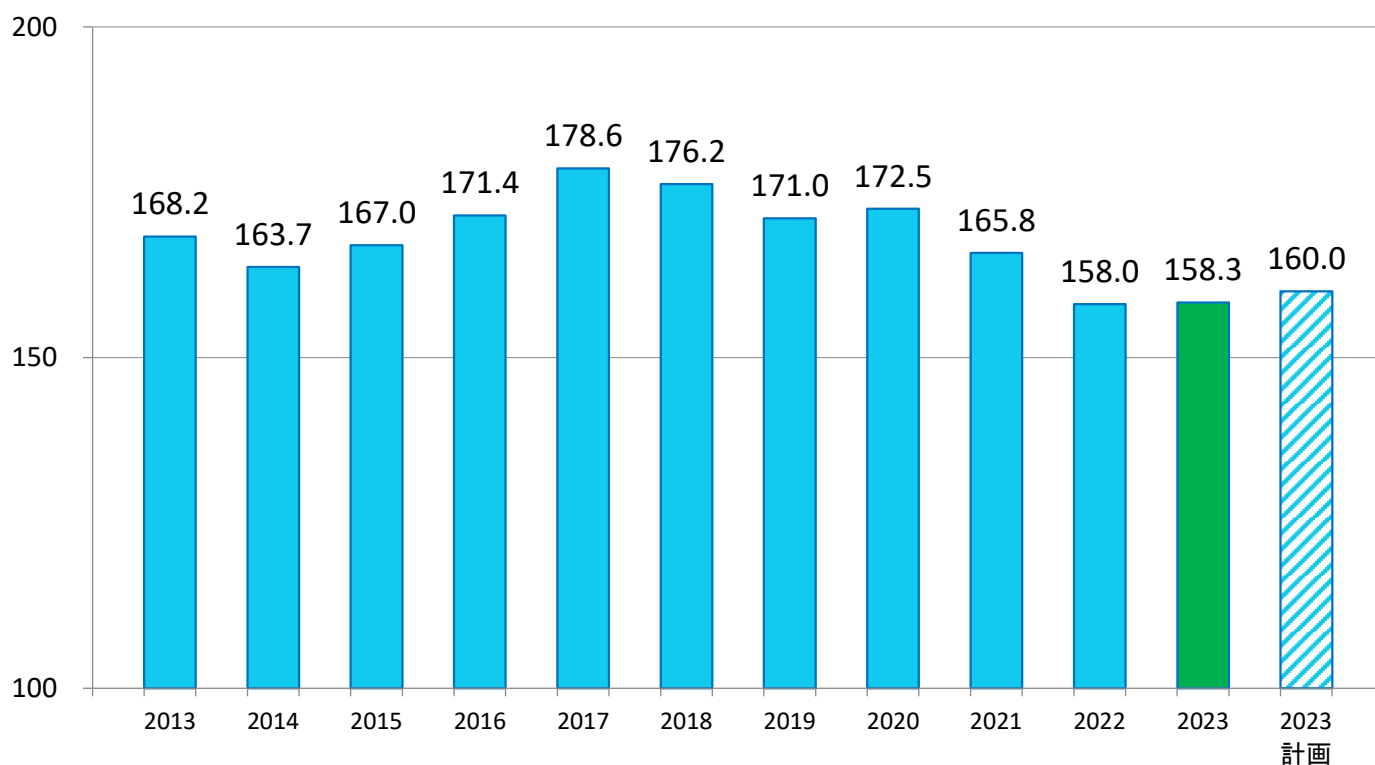
### 在籍会員数



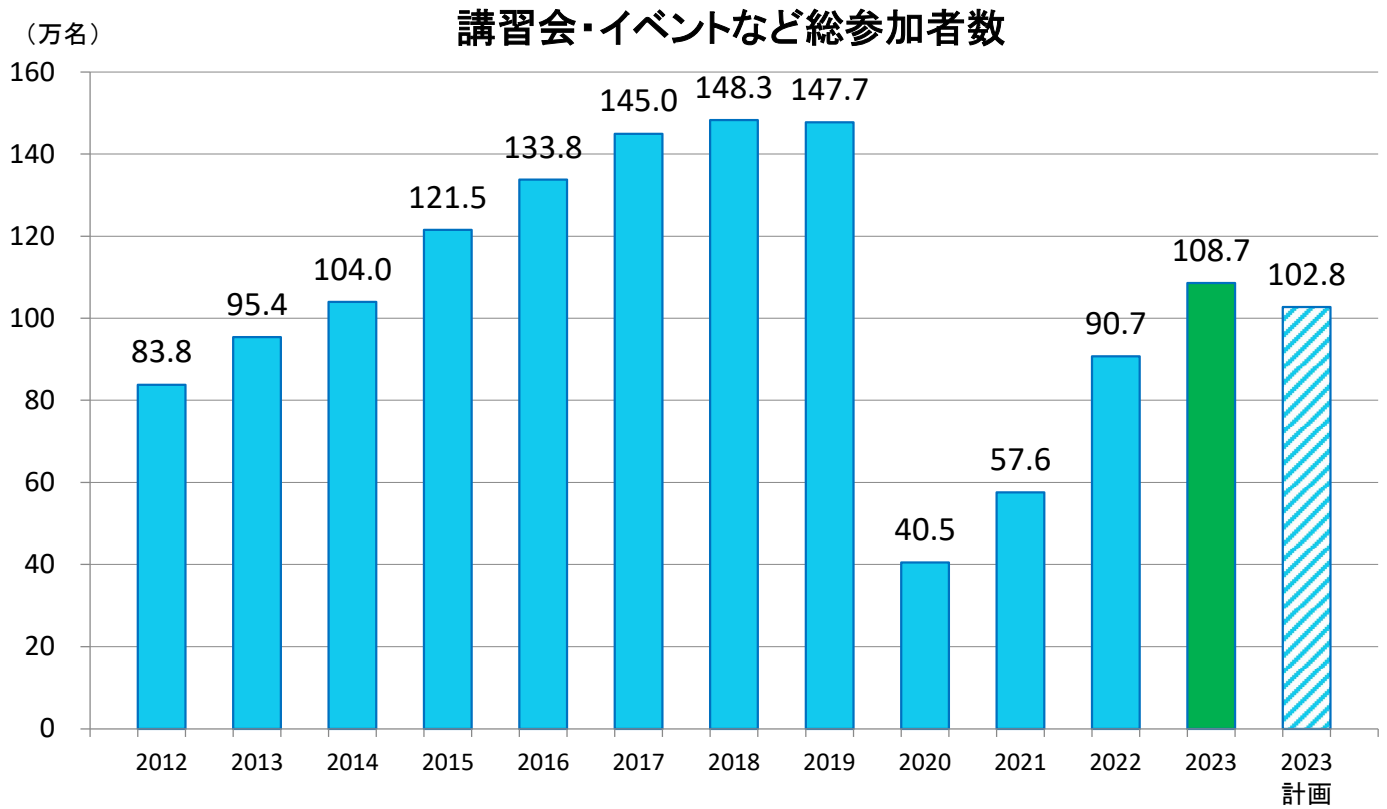
※ 棒グラフ上部の値は、表示単位未満を四捨五入して記載。次ページ以降も同様。

(万件)

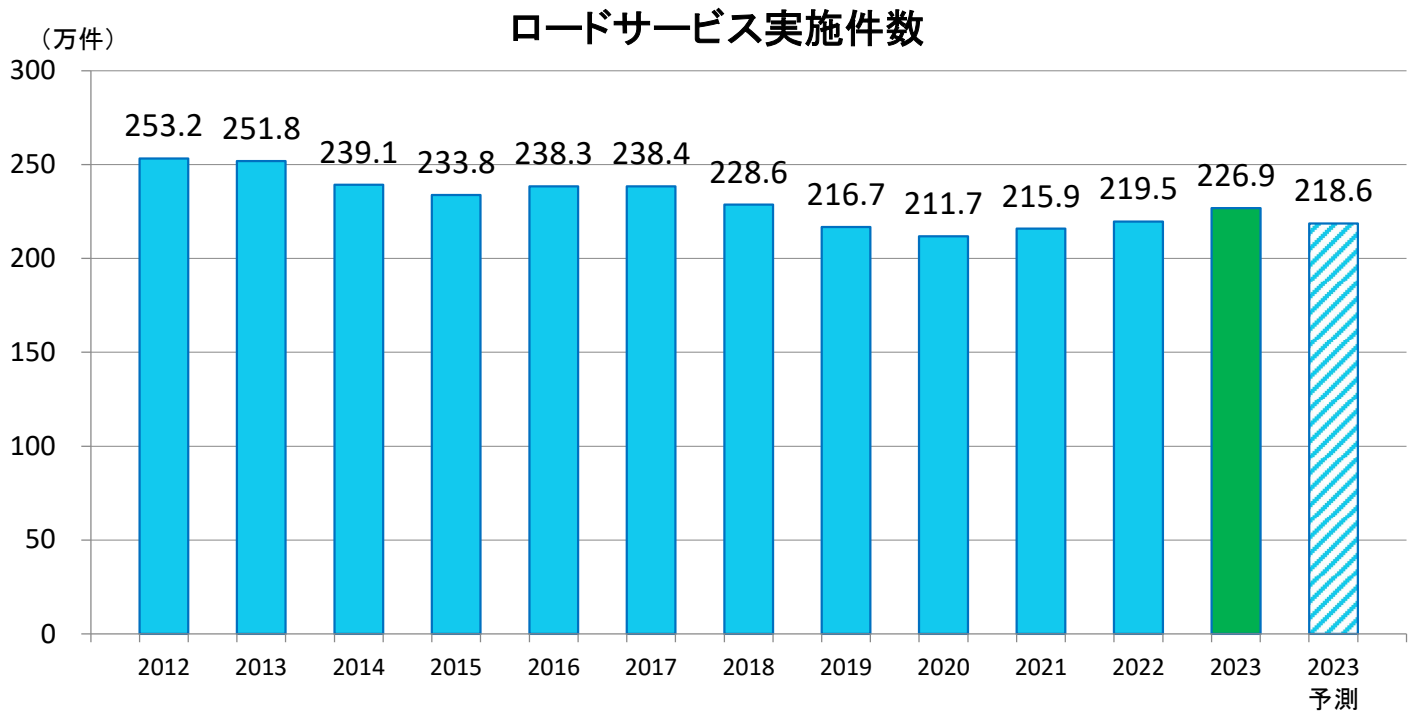
### 新規入会数



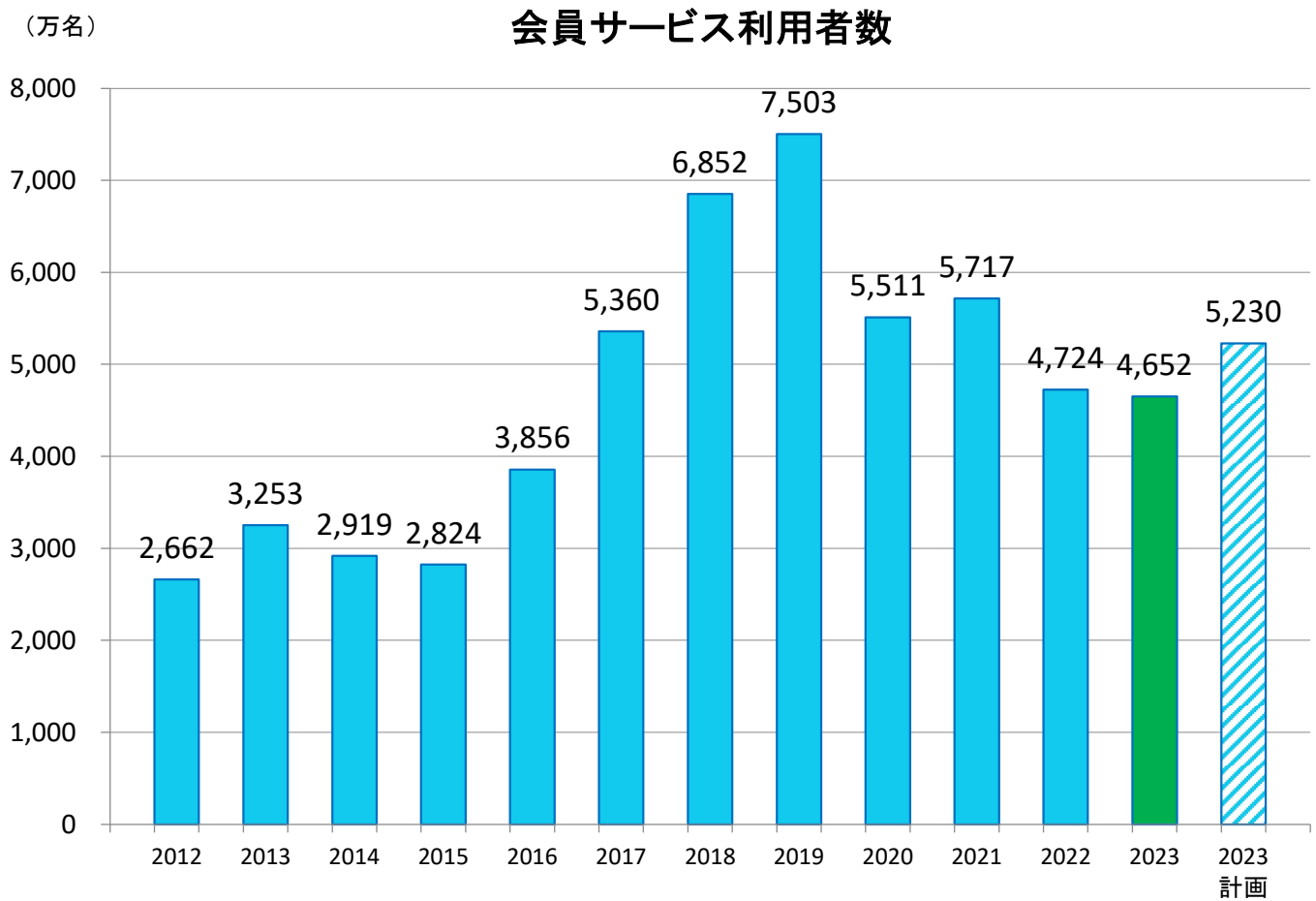
## (2) 交通環境啓発活動



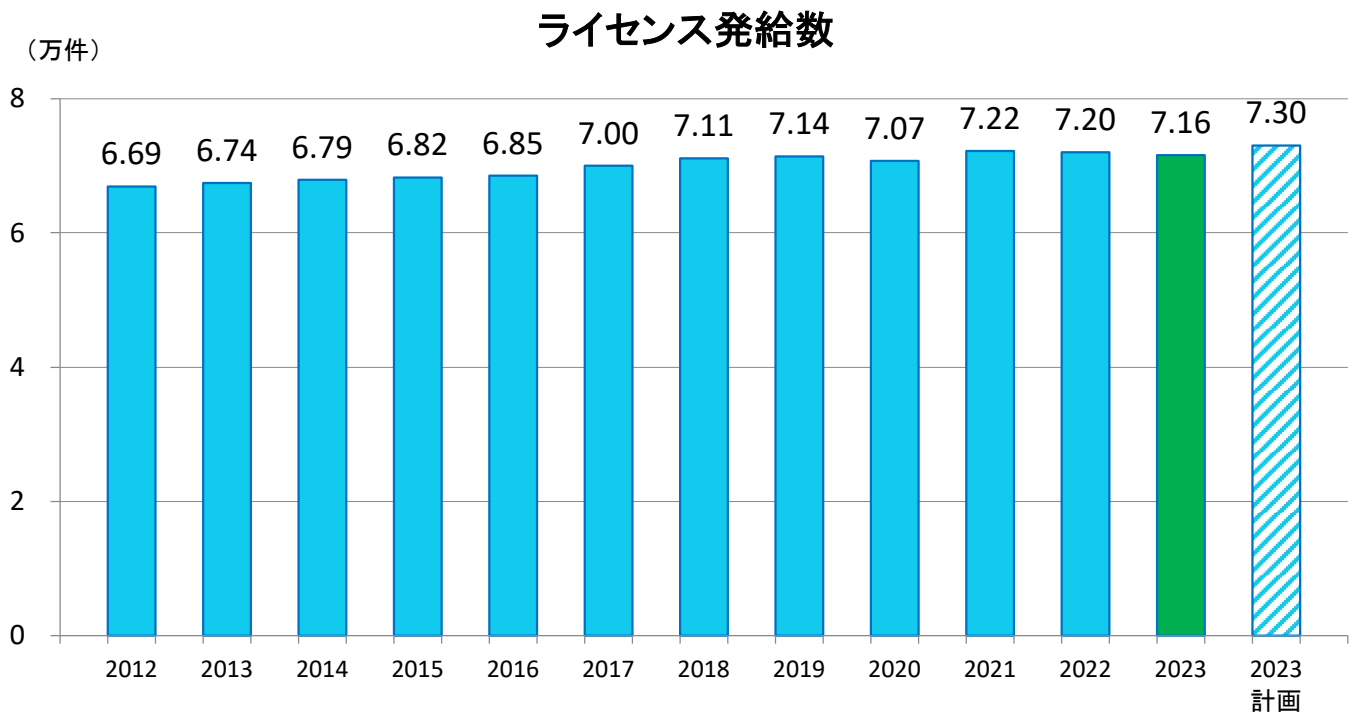
## (3) ロードサービス



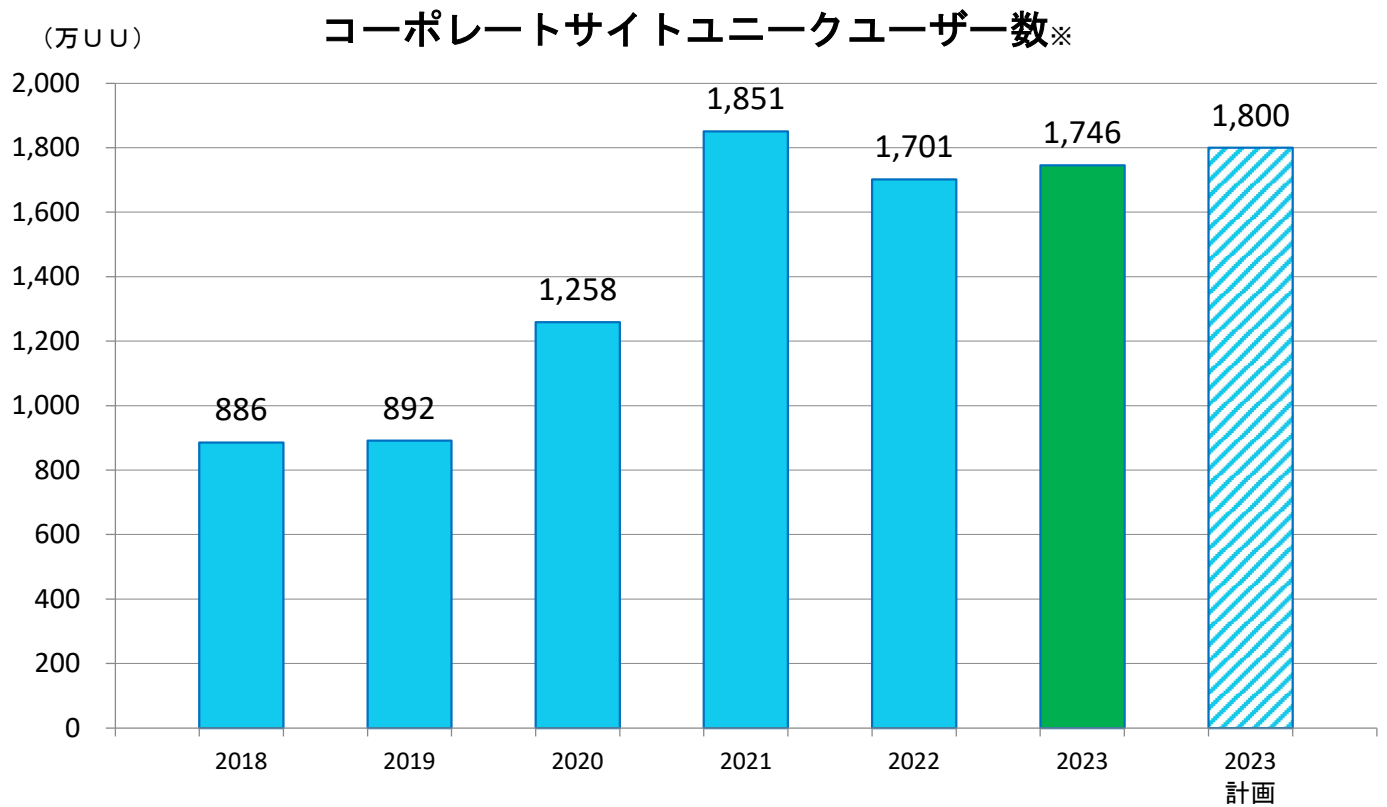
## (4) 会員サービス



## (5) モータースポーツ



## (6) 広報活動



※ UUはユニークユーザーの略で、ある期間内にホームページやその特定のページを訪問したユーザー数を示すものです。JAFでは2018年から計測を実施しています。

# (7) 主要計数の達成状況

## 1 会員

在籍会員数

(単位:名)

2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2023年度 計画数
19,487,221	19,707,591	19,931,302	20,099,526	20,301,304	20,501,501	20,420,000

JAFスマートフォンアプリ(デジタル会員証)登録者数

(単位:名)

2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2023年度 計画数
2,733,988	3,662,790	4,409,915	5,131,788	5,943,100	6,693,222	6,800,000

## 2 交通環境啓発活動

総参加者数

(単位:名)

2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2023年度 計画数
1,483,061	1,477,357	404,968	575,747	906,949	1,086,598	1,028,000

## 3 会員サービス

通年優待利用者数

(単位:名)

2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2023年度 計画数
40,220,071	37,441,761	24,225,216	25,586,498	28,538,227	28,216,443	37,000,000

アプリクーポン利用者数

(単位:名)

2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2023年度 計画数
122,075	186,799	421,985	1,056,822	2,129,714	3,246,521	3,000,000

## 4 モータースポーツ(集計:1~12月)

ライセンス発給数

(単位:件)

2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年度	2023年 計画数
71,061	71,374	70,710	72,188	72,000	71,562	73,000

競技会開催数

(単位:件)

2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年度	2023年 計画数
868	841	537	678	800	784	841

## 5 広報活動

2023年度以降はアクセス解析ツールの仕様が変更となるため、各サイトにてUU数を計測いたします。

コーポレートサイトユニークユーザー数 ※1

(単位:UU)

2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2023年度 計画数
8,915,504	12,584,438	18,507,418	17,012,756	17,457,360	18,000,000

モータースポーツサイトユニークユーザー数

(単位:UU)

500,805	499,254	859,785	844,343	991,436	840,000
---------	---------	---------	---------	---------	---------

JAFナビユニークユーザー数

(単位:UU)

10,044,660	9,524,153	11,699,170	12,315,414	14,216,012	15,000,000
------------	-----------	------------	------------	------------	------------

JAF Mate Onlineユニークユーザー数

(単位:UU)

2022年度	2023年度	2023年度 計画数
4,814,431	9,351,284	6,600,000

### 【ご参考】

ロードサービス実施件数および予測数 ※2

(単位:件)

2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2023年度 予測数
2,286,043	2,166,947	2,117,485	2,158,586	2,195,442	2,268,868	2,186,000

※1 ウェブサイトに訪問した月間のユーザーの数の累計数

※2 主要計数ではなく予測数のため参考として表示

## 2 活動の状況

### (1) 交通環境啓発活動

#### ① 社会貢献活動への取り組み

ア 社会のニーズを捉えたJAFユーザーテスト※

(ア) 駐車支援機能はどこまで使えるのか? (「JAF Mate」2023年春号)  
近年、新型車に多く普及しつつある駐車支援機能(パーキングアシスト)が、さまざまな条件でも機能し安全に駐車できるのか検証しました。



ディスプレイをタッチしてパーキングアシストを操作

歩行者などがいる場合、パーキングアシストが作動するか検証

(イ) 電動キックボードの衝突実験 (「JAF Mate」2023年夏号)

7月から改正道路交通法の一部が施行され、電動キックボード(特定小型原付の場合)は、16歳以上であれば免許不要、ヘルメットの着用は努力義務で運転できるようになりました。

電動キックボードの走行速度やヘルメットの有無により、衝突・転倒時の頭部への影響がどう変化するかを検証しました。

動画視聴回数: 公開5日後275,952回、公開30日後343,338回



実験の様子と転倒時の頭部損傷値(HIC)

※JAFユーザーテストの検証結果は、JAFコーポレートサイトや、YouTube公式アカウントの「JAF Channel」に掲載しています。



(ウ) 落雷時、車や車内にいる人への影響は？（「JAF Mate」2023年秋号）

落雷時、車内にいれば本当に安全なのか、人工的に雷を発生させる装置で車に落雷させ、車やドライバーに与える影響について検証しました。

動画視聴回数：公開5日後32,151回、公開30日後145,272回



車のルーフに落雷させた様子



落雷後のインジケーターの警告灯



タイヤについた雷の痕跡

イ YouTuber（ユーチューバー）と交通安全のコラボ動画を公開

ユーチューバーの木村亜美氏と制作した動画「教えて！JAF先生」シリーズとして、4月に「飲酒運転の危険性編」、6月に「パーキングアシスト編」の2本を公開しました。



飲酒運転の危険性編（4月公開）



飲酒後にシートベルト着用を忘れてしまう



パーキングアシスト編（6月公開）



後続車が接近した時に機能するのかを検証

## ウ 実写版危険予知事故回避トレーニング（KYT）

KYT「路面電車編」を2本、「新モビリティ編」を2本、計4本を公開しました。

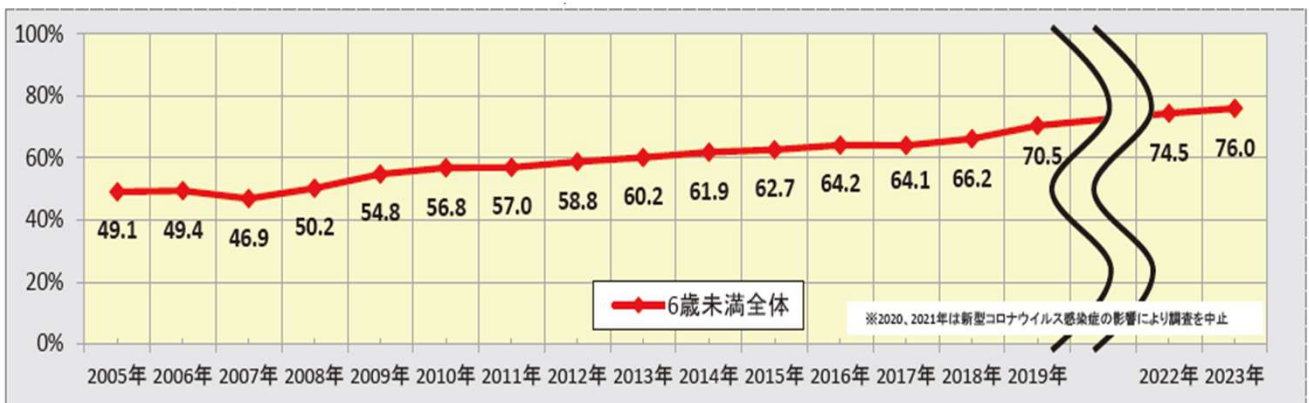


路面電車編

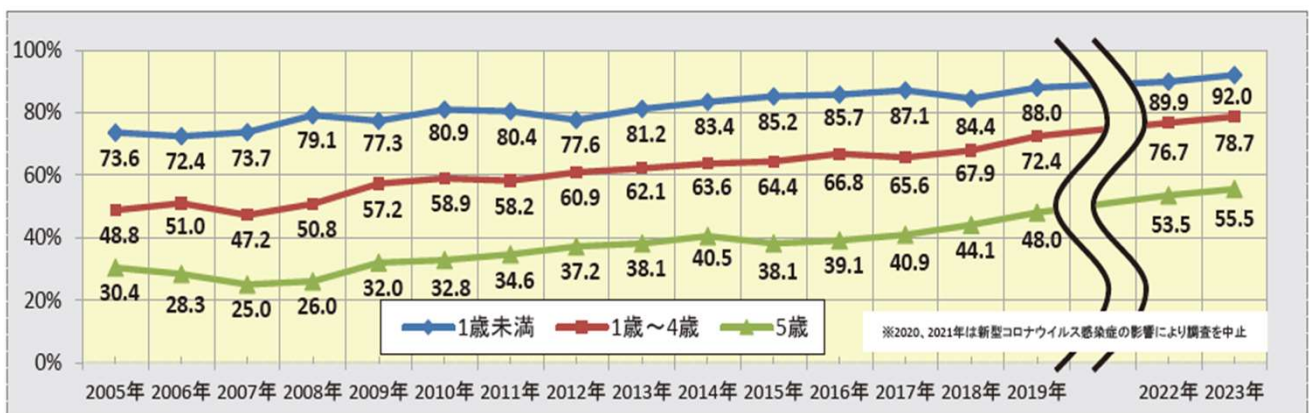
新モビリティ編

## エ チャイルドシート使用状況全国調査結果

6月3日～7月17日に警察庁と合同で「チャイルドシート使用状況全国調査」を実施しました。全国98箇所で調査した結果、6歳未満の子ども全体の使用率は76.0%（前年比1.5ポイント増）と過去最高となりました。



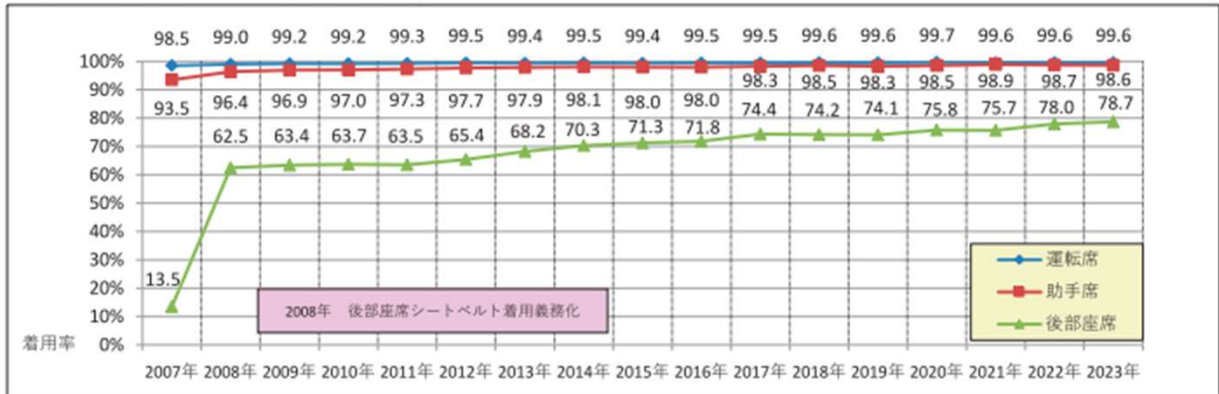
使用状況調査結果（使用率の経年推移：6歳未満全体）



使用状況調査結果（使用率の経年推移：年齢層別）

## オ シートベルト着用状況全国調査結果

10月10日～11月10日に警察庁と合同で「シートベルト着用状況全国調査」を実施しました。



### 高速道路等における着用率の推移



### 一般道路における着用率の推移

## カ 交通ルール・マナー向上のための実態調査

信号機のない横断歩道を歩行者が横断する時に車が一時停止するか、全国調査をしました（期間：8月9日～9月20日、全国94カ所）。

一時停止率の全国平均は45.1%と、前年度にくらべ5.3ポイント増加しましたが、依然として半数以上のクルマが一時停止しない結果となりました。

北海道	青森県	岩手県	宮城県	福島県	秋田県	山形県	新潟県	長野県	茨城県	栃木県	群馬県
29.0%	47.4%	56.2%	51.9%	60.8%	52.1%	53.6%	23.2%	84.4%	27.6%	74.8%	41.1%
埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	山梨県	富山県	石川県	福井県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県
38.9%	31.9%	39.6%	29.1%	61.0%	50.0%	76.4%	26.7%	65.4%	63.9%	61.2%	51.3%
滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県
46.3%	34.6%	26.7%	52.0%	48.1%	30.1%	50.0%	53.0%	47.8%	48.5%	48.5%	36.7%
香川県	愛媛県	高知県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	全国平均
39.1%	58.5%	35.3%	58.1%	26.2%	42.5%	66.1%	31.1%	63.6%	42.8%	31.1%	45.1%

2023年 信号機のない横断歩道における車の一時停止率（全国）

## キ ボランティアによる交通安全

### (ア) 交通安全実行委員会

会員や一般の方から寄せられた改善要望や提案により、道路交通環境が改善しました。



#### ■改善前

路面標示のペイントが消えかかっていて危険な状態（愛知・豊田市）



#### ■改善後

右折専用レーンや直進・左折の路面標示が再塗装された

### (イ) JAF交通安全ドレミぐるーぷ公演の様子



岡山県 浅口市立六条院こども園



北海道 こどもカンパニーしずく新道東

## ク JAF交通安全トレーニング（交通安全eラーニング事業）

JAFが培ってきた交通安全啓発のノウハウを活かし、企業の交通安全管理業務に役立つeラーニングサービスをサブスクリプション形式で提供しています。



ロゴマーク



受講画面

## ケ ドライバーズセミナー※の視察および改善の様子



前年度、参加車両とテントとの安全マージンを指摘した内容が本年度改善されていました。

※ドライバーズセミナー：参加者のマイカーを使用した交通安全講習会のこと。一般コースは、初心者運転期間を終えた運転歴1年以上の方からベテランドライバーまでを対象とし、シニアコースは50歳以上のベテランドライバーを対象としています。

※安全マージン：安全性を確保するための余裕やゆとりのこと。

## ② 2023年度自動車税制改正に関する活動

5～9月の期間、イベント参加者などを対象に「自動車ユーザーの生の声を集める活動」を全国各支部で実施しました。

10～11月には、新型コロナウイルスの影響で中断していた「自動車税制改正に関する街頭活動」を、全国で4年ぶりに再開しました。



自動車ユーザーの生の声を集める活動



街頭活動の様子

### ③ テレビ番組内で交通安全啓発

クルマをコンセプトとしたテレビ朝日系列番組「爆上戦隊ブンブンジャー」、番組エンディングのミニコーナーで、JAFの制服を着た出演者が交通安全のお約束を啓発しました。

※放送は2024年3月から1年間の予定



じてんしゃにのるときはヘルメットをかぶろうね



どうろやほどうであそばない



てをあげて、おうだんほどうをわたろうね

## (2) ロードサービス

### ① 災害に対応する特別支援隊の活動状況

本年度は、愛知県、秋田県、石川県へ特別支援隊を派遣しました。



愛知県での豪雨への対応  
・冠水により道と田んぼの境目がわからず、落輪する車両



秋田県での豪雨への対応  
・全国から特別支援隊員が派遣



令和6年能登半島地震への対応  
・道路損傷が激しく、減速を余儀なくされ、渋滞が発生している



令和6年能登半島地震への対応  
・救援要請車両まで近づけないこともあり、細心の注意が必要



## ② 新たなモビリティ・サービスなどへの対応

BEV（電気自動車）特有のトラブルである電欠に対応するため、ポータブル充電器を搭載したサービスカーを導入しました。

また、FCEV（燃料電池車）の水素切れに対応できるように、トヨタ自動車と共同で水素ロードサービスカーのプロトタイプを開発しました。FCトラックに水素モジュールを積んで、直接給水素が可能です。



EV充電対応サービスカー



水素ロードサービスカーのプロトタイプ



ポータブル充電器  
(サービスカー搭載)



ポータブル充電器（レッカー車搭載）での充電の様子

## ③ JAF公式ウェブサイトからの救援要請

コーポレートサイトに「JAFを呼ぶ」ページを公開しました。



コーポレートサイト「JAFを呼ぶ」



### (3) 会員サービス

#### ① 地方創生に向けた取り組み

##### ア 自治体との連携および地域振興活動

自治体と連携して「ドライブスタンプラリー」を160コース開催し、14.1万名が参加しました。

1～3月においては、「京王線沿線 会員優待施設スタンプラリー」や福岡県内都市圏を巡る「福岡の魅力発見！福岡都市圏エリアを巡るドライブスタンプラリー」など、都市圏でも開催しました。



【福岡の魅力発見！福岡都市圏エリアを巡るドライブスタンプラリー】  
 期間：2024年1月6日～3月3日  
 参加者数：1,717名  
 押下数：3,453回



【京王線沿線会員優待施設 スタンプラリー】  
 期間：2024年1月1日～3月31日  
 参加者数：1,147名  
 押下数：1,614回

## イ 産官学連携活動

大学や自治体などと連携した地域振興を推進し、8地方本部24支部が39校と活動しました。

### 【主な産官学連携活動】

	大学	内容
群馬支部	群馬県立女子大学 文学部（美学美術史学科）	群馬県内の交通課題解決に向けた取り組みとして、自転車の事故防止を啓発する反射材を制作しました。イラストデザインは群馬県立女子大学文学部（美学美術史学科）に依頼しました。 2月15日には、自転車事故防止とヘルメット着用の啓発を目的とした街頭活動「自転車のマナーアップ運動」（主催：上毛新聞社）に参加しました。反射キーホルダーを通学中の高校生に配布し、自転車の事故防止を啓発しました。
神奈川支部	國學院大學 観光まちづくり学部	國學院大學観光まちづくり学部、神奈川県観光課、JAFの三者による産官学連携企画「みんなで神奈川のガイドブックを作ろう！」を5月より開始しました。 2月13～14日には「神奈川の魅力再発見」デジタルパンフレット作成のワークショップを開催しました。掲載テーマ決めや、フォトコンテストで募集した写真をもとに掲載写真の選定、テキストの作成などを経てデジタルパンフレットを完成させました。 完成品はJAF公式ウェブサイトやInstagramのほか、県観光課のホームページ、X（旧Twitter）、Instagram等でも公開しました。
福井支部	福井大学 国際地域学部	2月に東尋坊・恐竜博物館に学生の調査員を派遣し、ドライブ観光客の周遊や滞在実態を把握するためのアンケート調査をしました。 2月1日～3月20日には、県内道の駅4カ所でWEBアンケートを実施しました。収集した情報をもとに、今後の方向性について議論を進めました。

## ② ビジネスアイデアコンテスト

新規事業を探索し創出するための組織風土醸成を目指し、「ビジネスアイデアコンテスト2023」を開催しました。



最終審査（役員プレゼン）の様子

### ③ グリーンスローモビリティ※を活用した協働事業

地域の交通課題解決を目的にヤマハ発動機株式会社と協力し、グリーンスローモビリティを活用したモビリティサービスの導入業務を支援しています。

※グリーンスローモビリティ：時速20km未満で公道を走ることができる電動車を活用した小さな移動サービスで、その車両も含めた総称



観光振興  
(富山・南砺市)



過疎化対策  
(東京・青梅市)



中山間地域の交通網衰退対策  
(東京・青梅市)

## (4) モータースポーツ

### ① FIA（国際自動車連盟）世界選手権の開催

3月30日に、「FIAフォーミュラE世界選手権」が東京ビッグサイト・有明エリアの一般道路および駐車場（東京ビッグサイト敷地内）を利用した特設サーキットにおいて開催されました。



レース風景



表彰式

### ② モータースポーツにおける安全性向上への取り組み

2月の「JAFモータースポーツジャパン in お台場2024」では、「FIAフォーミュラE世界選手権」のボランティアオフィシャルスタッフを対象に、日本初の本格的な公道レースに備えた講習会を開催しました。



モータースポーツジャパン救助講習会

### ③ J A F モータースポーツ表彰式の開催

11月24日に、グランドニッコー東京 台場（東京・港区）にて「J A F モータースポーツ表彰式」が開催されました。

各カテゴリーの入賞者およびチームチャンピオンなど合計271名を招待し、表彰式の様子をY o u T u b eにて生配信しました。



表彰式の様子

### ④ J A F 創立60周年記念ヘルメットの制作

F I A世界耐久選手権、F I Aフォーミュラ1世界選手権日本グランプリ、F I A世界ラリー選手権の参加ドライバーからサインを拝領し、記念ヘルメットを制作しました。



J A F 創立60周年記念ヘルメット

## (5) 広報活動

### ① 各種イベントへのPRブース出展

10～11月の「ジャパンモビリティショー」では、60周年をむかえたJAFの「過去・現在・未来」をマンガ風イラストで説明しました。

また、「JAF鈴鹿グランプリ」「フォーラムエイト・ラリージャパン2023」にPRブースを出展しました。



ジャパンモビリティショー



JAF鈴鹿グランプリ



フォーラムエイト・ラリージャパン2023

## ② モビリティ・レジリエンス・アライアンス※1

「災害時にも車に困らない社会づくり」の支援のため、7月に一般社団法人日本カーシェアリング協会※2と「モビリティ・レジリエンス・アライアンス」のパートナーシップを結びました。

これにもとづき、各支部の社用車および職員のマイカーを7台、同協会に無償提供しました。

※1 モビリティ・レジリエンス・アライアンス：大規模災害で車を失い、移動に困難を抱える被災者の支援に向けて、平時から自治体・企業・団体の皆様と連携していざというときに迅速な支援を実現すべく発足した災害支援のためのネットワークです。

※2 日本カーシェアリング協会：2011年3月11日に発生した東日本大震災をきっかけに同年4月から車を失った被災者や高齢者を含めた地域社会を支援するため、全国からの寄付による車を被災者に提供する活動を開始しました。



協定締結式の様子  
(左：日本カーシェアリング協会吉澤代表理事  
右：J A F 坂口会長)



寄付車両（東北本部）



寄付車両（中国本部鳥取支部）

## (6) 国際活動

### ① 外国運転免許証の翻訳

外国運転免許証から日本の運転免許証に切り替える、または日本国内で運転する（特定国・地域※に限る）際に必要な外国運転免許証の「日本語による翻訳文」の発行件数は、111,691件（前年度比144.8%）と過去最多件数となりました。

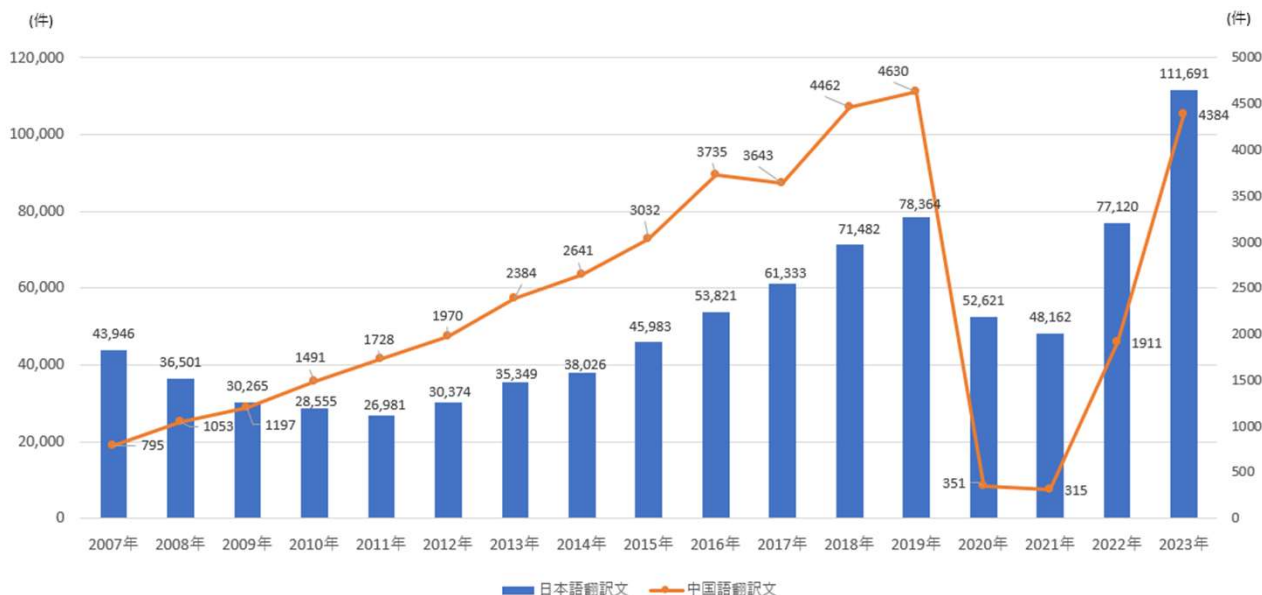
なお、日本の運転免許証所持者が台湾で運転するための中国語翻訳文の発行件数は4,384件（前年度比229.4%）となりました。

※ 国際運転免許証

ジュネーブ条約にもとづく国際運転免許証所持者は、日本に入国した日から1年間、日本で自動車などを運転することができます。

ジュネーブ条約未締結または国際運転免許証を発給していない国や地域の場合、我が国と同等水準の免許制度を有している特定国・地域（スイス・ドイツ・フランス・ベルギー・モナコ公国・台湾）の運転免許証所持者は、「日本語による翻訳文」を添付して自動車などを運転することができます（日本に入国した日から1年間）。

「日本語による翻訳文」発行件数



### ② 海外への交通安全講師派遣

10月28日にシンガポールで開催された「海外安全運転フォーラム2023」に職員を講師として派遣しました。



講演と会場の様子





## ② ITデジタルを活用した業務改善（実証実験の例）

ア 「Chat GPT内製化アプリ（JAF AI Chat）」  
 質問内容が外部利用されない「Chat GPT内製化アプリ（JAF AI Chat）」を作成し、実証実験を2回（7～9月、11～1月）実施しました。



Chat GPT内製化アプリ（JAF AI Chat）

## イ 「仮想空間（メタバース）」

社内外の方々が地域や部署の垣根を超えてDX、ITデジタルについて学び合い情報交換できる「対話と共創」の場として、メタバースを活用しています。



←[1階] 社内外の人との交流やセミナーを開催

→[2階] DX推進本部の執務室やJAFITアカデミー会場



←[3階] 地方本支部のプロジェクトメンバーなどDXに関心のある職員が集まるラボ

→[4階] 勉強会やワークショップ会場



「仮想空間（メタバース）」（JAFITアカデミー@メタバース）